



With you

ウィズユー

日本UNHCR協会ニュースレター

No.8 2006年 第1号



目次

スーダン南部地域 — UNHCR現地事務所開設奮戦記	2
続く人道危機 — スーダン西部ダルフル地方	3
世界の難民 ルワンダへの帰還	
パキスタン大地震 / アフリカ難民に水を！ / アフガン帰還民支援	4
世界難民の日 / ご寄附の方法いろいろ	5
ダダーブ難民キャンプ訪問記	6

日本UNHCR協会はUNHCR
(国連難民高等弁務官事務所)の公式支援窓口です。

JAPAN FOR  UNHCR
The UN Refugee Agency

スーダン南部地域 UNHCR現地事務所開設奮戦記

ユースエグゼクティブ
UNHCR本部職員である米川正子(よねかわまさこ)さんは、2005年5月から10月までスーダン南部第2の町であるマラカル(Malakal)に滞在し、事務所長を務めました。スーダンの現地の状況を東京で1月6日にお聞きしました。



現地の米川さん(左)

Q マラカルとはどのような町なのですか？

A スーダン政府側(北)が支配していたのですが、2005年1月のスーダン南北和平合意を受けて、7月からSPLM(スーダン人民解放運動)の管理下に入っています。首都ハルツームとジュバの中間でナイル川沿いに位置する南部第2の都市です。かつてはカジノや映画館もあり、新婚旅行先として人気のある美しい町だったそうですが、内戦によって破壊しつくされ、地雷が町の周りに埋められています。

Q 滞在中はどのような状況でしたか？

A 5月から10月までは雨季だったので町中が水浸しでしたが、難民や国内避難民が自主的に帰ってきていました。すでに10の国連機関と13のNGOが事務所を設けています。とにかく道路事情が悪く、物資輸送はスーダンの首都ハルツームからの空輸や、より割安なナイル河の水上輸送に頼っていました。

Q UNHCRの現地での役割を教えてください。

A 援助対象は周辺国からスーダンに戻ってきた帰還民、北側から逃れてきた国内避難民、さらにその地域に住む地元住民やエチオピアから流出してくる難民です。帰還状況の把握、ナイル河に沿って帰還民の中継所建設、帰還民の多い村に関する調査など、やるべき事はたくさんあるのですが、問題も山積みでした。

Q 最初はどのような問題に直面したのですか？

A UNHCR事務所開設のために、私はまず一人で現地に入りました。事務所を借りたくても候補となる物件があまりなく、宿泊場所も転々となりました。軍閥との関係をなるべく排除したいものの、家主にせよ現地職員候補にせよ、誰なら大丈夫なのかははっきりとはわからない点も不安でした。女性であるがゆえに甘く見られる面もありました。さらに、雨季には道路が水浸しで河川交通に頼

るしかなく、ボートがないと村を訪問することさえできません。スピードボートが到着するまでの4か月間、他の援助機関から借りてなんとかやり繰りしました。

Q 支援活動を始める準備だけでも相当大変なのですね。

A 安全・移動・輸送の確保が最大の問題でした。武器の氾濫、地雷や軍閥の存在、湿地や洪水によって、移動や輸送が制限されてしまいます。この悪条件の中で、難民の帰還計画を本格化させるのは簡単ではないと感じました。とりわけ輸送手段の不足は深刻です。スーダンは日本の約6.6倍もある大きな国ですが、UNHCRが8カ所の拠点を持つスーダン南部で使える飛行機は1機しかなく、もう1機必要です。国内避難民の多くが移動に使っている貨物船にはフェンスがなく川に転落する危険が高く、さらに寝転ぶ場所やトイレも限られているので、客船を用意する必要があります。また、重要な国境地点などを訪問できない理由が、湿地とか安全の問題だけでなく、適切な移動手段がないだけという場合もあります。

Q そのような厳しい状況に、どのように対処したのですか？

A 最初は一人でしたが、同僚が到着してからは良い仲間恵まれて結構楽しかったですよ。UNHCRの緊急援助派遣スタッフリストに登録している職員が数か月単位で派遣されるのですが、ケニアに赴任していた高嶋由美子さんともう一人の職員が加わってからは、共に合宿生活を楽しましました。もともと冒険好きな私にとってアフリカの現場に根差した仕事は向いていると思っています。

Q これまでも、世界各地で援助活動に関わってきたそうですね。

A 1992年にカンボジアに選挙監視員として派遣された後、リベリア、南アフリカ、ソマリア、タンザニアでの活動に参加しました。1996年にUNHCR職員となって、ルワンダで難民の帰還と再定住を担当しました。1998年からケニアを拠点とする巡回フィールド担当官として東アフリカ諸国を巡り、2001年からはコンゴ民主共和国でアンゴラ難民の帰還計画作りに携わりました。2003年にジュネーブ本部で高等弁務官補佐官に



貨物船でさまざまな物資が運ばれる

なりましたが、昨年初めには津波で被災したインドネシアのアチェに2か月間派遣されました。

Q 今後、スーダン難民が故郷に帰るためには、何が重要だと感じますか？

A 国内のインフラ整備に加えて、とくに教育環境の整備と安全の確保が大切です。たとえ校舎があっても、教員が不足しています。難民キャンプでは最低限の教育を受けられるので、子どもの学校が整っていないと親は帰還を躊躇するものです。さらに、元兵士の武装解除、雇用・教育機会の提供を早急に進める必要があります。

Q 日本の支援者の皆さんにメッセージをお願いします。

A 日本が戦後に発展できたのも、阪神大震災後にすばやく復興できたのも、国民の努力だけでなく、国際社会からの支援があったことを忘れないでほしいです。今のスーダンは、戦後の日本と同じようなものです。自ら国づくりに努力している人々もいます。たとえば、難民として滞在したケニアから持ち帰った教科書を使って、自主的に成人学校を開いている帰還民と会い、大変感銘を受けました。しかし、個人の力には限界があり、外からの助けが必要です。「スーダンは遠い国だから自分たちと関係ない」という考えは、今の世界では通用しません。困っている近所の人を助けるような感覚で、スーダンの人づくり、国づくりを支援していただきたいと思います。そのためには資金援助だけではなく、スーダンに興味を持ち、知ったことを周りの人と共有することも大事です。近い将来、南スーダンが舞台となるハリウッド映画ができるので、それをきっかけとしてスーダンのメンタル・サポーターが増え、国の和平につながるよう祈っています。

写真提供：米川正子



雨季のマラカル

続く人道危機

スーダン西部ダルフル地方

スーダン西部のダルフル地方では、2003年春頃より、アラブ系民兵(ジャンジャウィード)によるアフリカ系住民への襲撃が続いています。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は隣国チャドに逃れた21万人のスーダン難民を12カ所の難民キャンプで保護しています。2005年1月に調印されたスーダン南北内戦に関する和平合意が、ダルフルにも良い影響をもたらすのではないかと期待されましたが、ダルフルの治安は回復されず、最近では国境のチャド側も安全を脅かされるようになりました。2005年12月18日に民兵がチャド側の国境の町アドレを襲いました。2006年1月20日には、UNHCRがふたつのキャンプで2万5000人を保護しているゲレラの村を襲い、政府の役人数名を人質に取ったと伝えられています。

1月に入ってから3週間で、10~20人

の小グループになって計800人があらたにチャドに避難してきました。ダルフルの村からチャドのガガ難民キャンプに家族と逃げてきた74歳の老人は、「4日間歩いて国境を越えて逃げてきました。村が夜中

に襲撃され、多くの村人や家畜が殺害されました。幸い、私たちは無事キャンプにたどり着くことができました」と話しています。

アントニオ・グテーレス難民高等弁務官は、1月24日の国連安全保障理事会でダルフルの状況を報告し、「もし国連やアフリカ連合(AU)が積極的に関与し、策を講じなければ、国際社会はダルフルでさらなる惨禍に直面するだろう」と支援を訴えました。

UNHCRはチャドのスーダン難民支援



捨てられたサンダルと厚紙で作ったおもちゃで遊ぶ子どもたち
(チャド東部のスーダン難民キャンプ) UNHCR/J.Clark

に8123万ドル(約96億円)、ダルフルの国内避難民に3134万ドル(約37億円)を必要としています。それぞれ59億円、19億円しか確保されていません(2005年12月)。引き続き皆様のご支援をお願いします。

スーダン難民支援

ご支援ありがとうございました。

ご寄附: 4367万7653円 件数: 3025件
(2005年1月1日~12月31日)

*チャドのスーダン難民、ダルフルの国内避難民、スーダン南部の帰還民支援

世界の難民 ルワンダへの帰還



アフリカのルワンダは、面積が四国の約1.5倍、人口約841万人(2004年)の小さな国です。1994年4月から7月にかけて、人口の約8割を占めるツチ系住民と約2割を占めるツチ系住民の間に武力衝突が起こり、約80~100万人が虐殺されました。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の推計では、同年8月までに200万人以上が難民となり周辺国に逃れました(ザイール=コンゴ民主共和国120万人、タンザニア58万人、ブルンジ27万人、ウガンダ1万人など)。難民キャンプが武装勢力に利用されるなど、この虐殺と大量の難民の流入により、周辺国の政情も不安定となりました。

その後、約320万人のルワンダ難民が帰還しましたが、現在もアフリカ14カ国に約

4万8000人のルワンダ難民が残っています。UNHCRは首都キガリを含め、6つの事務所と約60人の職員でルワンダ難民の帰還を支援しています。帰還をためらう主な理由はルワンダの経済状況、学校や病院など公共サービスの不足、虐殺行為に関する訴訟の恐れなどが挙げられます。

UNHCRは難民を無理やり本国に帰還させることはありません。帰還するかどうかを難民自身が判断できるように、短期間の「故郷再訪問」を行っています。たとえば、マラウイにはまだ3400人のルワンダ難民が生活しています。虐殺があったとき19歳だったジョセフィーヌさんは数百キロを歩き続け、まずブルンジに、後にタンザニアに避難しました。彼女は無一文でしたが、行く先々の村人の支援でなんとか生き抜くことができました。1996年以降はマラウイのルワニヤ難民キャンプで生活しています。

昨年12月、ジョセフィーヌさんは故郷が現在どのような状況なのかを確認するため、11年振りに故郷を訪れました。彼女は母と妹に再会できた一方で、父がすでに亡くなったこと、兄4人は1994年に行方不明に



ジョセフィーヌさんとその母親 UNHCR/B.Gonzalez

なままであることを知らされました。

数週間の滞在後、マラウイのキャンプに残る仲間たちに状況報告することになっているジョセフィーヌさんは、「ルワンダは今、平和な国になったようです。故郷へ帰らない理由はないと思います」と話しました。

話題の映画「ホテル・ルワンダ」

1994年の虐殺をテーマにした映画です。2004年制作ですが、日本では最近になって関心が高まり、各地で随時公開される予定です。

お問い合わせ: 株式会社メディア・スーツ
03-5428-1079

またはホームページをご覧ください。

<http://www.hotelrwanda.jp>

学校で難民問題を勉強しませんか?

日本UNHCR協会は、子どもたちにも難民問題を知っていただきたいと願っています。ぜひ「総合学習の時間」などで取り上げていただき、子どもたちが故郷を追われた人々のことを知り、同じ地球人として何ができるかを一緒に考えていただければ幸いです。参考資料をお送りしたり、講師派遣も可能です。どうぞお問い合わせください。03-3499-2450 school@japanforunhcr.org

パキスタン大地震 寒さとの闘い

ユニセフ・パキスタン(国連難民高等弁務官事務所)は、昨年10月8日に発生したパキスタン大地震で家を失った多くの被災者に援助活動を続けています。UNHCRはパキスタン軍や地元当局に協力し、主に救援物資の支給や避難民キャンプの設営・運営に関する技術指導も行っています。現在19ある派遣チームを65に増強する予定です。公式に設営された30ヵ所のキャンプと自然発生的にできた多数のキャンプがありますが、パキスタン政府は北西辺境州やカシミール地区の高地から、約10~20万人が移動してくると想定しているため、さらに設営が必要となる可能性があります。

UNHCRは厳しい冬を乗り越えるため、毛布一人3枚、各テントにビニールシー

ト2枚、マットレス4枚、ストーブ1個と灯油の支給を進めています。テント内にストーブを設置することには、火災の可能性を心配し、賛否がりましたが、パキスタン当局とUNHCRは危険な体温低下を防ぐためにはストーブの設置が不可欠と判断しました。火災予防パンフレットの配布、消火訓練の実施、消火器の設置も同時に進めています。被災者たちは、支給されたストーブを「命の恩人」と呼んでいます。UNHCRは4万個のストーブと灯油を支給する予定です。

UNHCRはパキスタン大地震被災者の支援活動に3000万ドル(約35億円)必要としていますが、2006年1月時点で約2452万ドルが確保されました。しかし、



「命の恩人」を囲って UNHCR/A. Rummery

まだ約6億円不足しています。今回の緊急援助で空っぽになったUNHCRの備蓄倉庫を次の緊急事態に備えて補充する必要もあります。

* UNHCRの活動は今年中旬を区切りとしています。

パキスタン大地震被災者支援

ご支援ありがとうございました。
ご寄附：5178万2752円 件数：3128件
(2005年10月8日～12月31日)

*2005年10月以降、「緊急ファンド」をパキスタンに充当してきましたが、2006年3月1日以降、「パキスタン地震」とご指定ください。

アフリカ難民に水を!

水は飲むだけでなく、炊事・洗濯にも必要ですし、手や食器を洗うなど、衛生状態を保つためにも欠かせません。故郷を追われた難民にとって、水の確保は容易ではありません。ユニセフ・パキスタン(国連難民高等弁務官事務所)は難民一人15リットル/日を支給することを目標にしていますが、特にアフリカの難民キャンプでは安全な水がなかなか確保できません。

そこでUNHCRでは、チャドのスーダン難民キャンプ周辺で井戸を掘るにあたって新しい技術を試みました。スペースシャトルなどの立体映像から、土地の高低差、雨季に水が流れた跡(ワジ)、花崗岩や玄武岩などの地質、断層の有無などを分析し、水脈を掘り当てます。これらのデータは、あらたな難民キャンプの候補地選びにも参考にされます。



キャンプで水を汲むスーダン難民の少女(チャド)

アフリカ難民に水を!

ご支援ありがとうございました。
ご寄附：734万1594円 件数：795件
(2005年1月1日～12月31日)

アフガン帰還民支援

2005年は約70万5000人のアフガン難民が故郷へ帰りました(パキスタンから44万5000人、イランから26万人)。これは2002年の160万人に次いで2番目に大きな数字です。2002年以降、計420万人が帰還したことになり、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の帰還事業として最大規模のものです。

寒さの厳しいアフガニスタンでは、



UNHCRの支援を受けた再建作業 ©UNHCR

12月末から3月までは帰還事業が一時休止されます。2005年度最後の帰還は、12月12日、パキスタンの3つの地域から、29家族164人がアフガニスタンの故郷を目指して出発しました。UNHCRは距離に応じて4~37ドルの交通費と当面の生活費12ドルを支給しています。

避難先のパキスタンで絨毯職人をしているモハンマド・ジアさんは、製作中の絨毯が仕上がるのを待っていました。「アフガニスタンの冬は厳しいので、春を待ったほうが良いかもしれませんが、先に帰っている家族に会いたいのです。アブドゥル・アジズさんは今回、家族を残して帰還することにしました。「先に帰って畑を始め、家を直したいのです、家族を問題なく迎えられる



故郷へ向けて出発するトラック

ように。」

皆様のご支援で多くのアフガン難民が故郷に帰りましたが、まだパキスタンに約260万人、イランに約100万人も残っています。UNHCRはアフガン政府とパキスタン政府との三者協定の期限を2006年3月から12月に延長し、引き続きアフガン難民の帰還を支援します。

アフガン帰還民支援(住宅再建支援を含む)

ご支援ありがとうございました。
ご寄附：543万5577円 件数：243件
(2005年1月1日～12月31日)

世界難民の日 イベント募集中!



毎年6月20日は、国連の「世界難民の日」です。難民となった人々に想いを寄せる日として、世界各地でさまざま

な取り組みが行われています。

日本では昨年、主に4月～7月を「世界難民の日」キャンペーン期間とし、各種イベントを募集しましたところ、全国各地から約50件のイベント登録をいただき、日本UNHCR協会のホームページでご紹介しました。

イベントの内容は多岐にわたっています。たとえば、大阪では、「堺市女性団体協議会」が難民について考える学習会を企画し、ピーバースカウト・ボーイスカウトの子どもたちと街頭募金も実施しました。

「国際ソロプチミストアメリカ日本北リジョン」は、山形県酒田市の「第19回日本北リジョン大会」会場で、難民の写真を展示しました。兵庫県立兵庫高等学校は、文化祭で難民の写真展を行い、クイズ形式で難民問題を身近に感じてもらえるような工夫をしました。

東京都多摩市では、食の安全を考える団体「チブコ」とアマチュアサッカーチーム「本宿蹴球団」が合同で映画上映会を企画し、街頭募金と当日の会場でインド洋大津波被災者支援を呼びかけました。主催者の方から「動き出すきっかけは何でもいい。大事なはず動いてみる。自分が動くことで他の誰かも一緒に動いてくれて、やがてそれが大きな流れになるということが肌で感じられた」との感想をいただきました。

外国人や若者が多く訪れる六本木や神田のカフェに、難民の写真をアートな視点から飾り、難民問題に関心をもつきっかけ作りを試みたのが「音楽で世界を平和にする風風(WWPM)」でした。



昨年の街頭募金の様子

今年も広く登録イベントを募集しています。日頃から「難民支援活動」をしている人々ばかりではありません。むしろ、「こういった活動は初めてなんです…」という方々が多く、手探り状態ながらも工夫して、難民問題を一人でも多くの人に知ってもらおうとした結果が日本各地でのイベント開催につながりました。

小さなイベントでもかまいません。第一歩として自分でできることから始めてみませんか？ たくさんのご応募をお待ちしております。応募用紙、詳細は当協会のホームページでもご覧いただけます。写真パネルの貸出等についてもお問い合わせください。

ご寄附の方法いろいろ

日本UNHCR協会

ユースエージェンシー

UNHCRの公式支援窓口です。

UNHCR協会では、以下の方法で常時ご寄附をお受けしています。皆様のご寄附は寄附金控除の対象となります。

毎月倶楽部

毎月の自動引き落としによるご寄附です。

郵便局

(振込手数料はUNHCR協会がお支払いする「加入者負担」です)

郵便振替口座：00140-6-569575

加入者名：UNHCR協会

(「HCR協会」とプリントされた古い振込用紙も引き続きご利用いただけます)

インターネット/クレジットカード

ホームページでお申し込み後、郵便局やコンビニでお振り込みいただける用紙がお手元に届きます。あるいは銀行振込やクレジットカードでも可能です。

www.japanforunhcr.org/gokifu.html

銀行

三菱東京UFJ銀行 青山支店

普通口座 5251034

三井住友銀行 渋谷駅前支店

普通口座 3478195

口座名(・共通): UNHCRキョウカイ銀行からのお振り込みはお名前の一部しか表示されません。手続きの際、登録IDをお持ちの方は依頼欄にID番号・お名前の順にご入力ください。

登録IDをお持ちでない方あるいはわからない方は、受領証やニュースレター発送のため、お名前・住所・電話番号をご連絡ください。

遺贈および相続財産のご寄附

遺贈や相続財産のご寄附をお考えの方は当協会にご相談ください。パンフレットをお送りします。

「毎月倶楽部」にご協力ください

UNHCRの活動資金は各国からの任意の拠出金と民間の皆様からのご寄附に支えられていますが、恒常的な資金不足にあるUNHCRは各種援助プログラムを縮小・中止せざるを得ないことが多々あります。UNHCRの援助活動は緊急時に救援物資を支給するだけではなく、難民の子どもの教育、職業訓練、性的虐待を受けた難民女性の保護、故郷への帰還支援など、多岐に渡ります。

毎月倶楽部は毎月の自動引き落としによりご寄附いただくプログラムで

す。長期的かつ安定した援助活動を実施するため、適宜お寄せくださるご寄附に合わせて、毎月倶楽部による継続的なご支援もご検討いただければ幸いです。

ご支援をお寄せくださった皆様には適宜「ご案内」をお送りしていますが、ご関心のある方はお問い合わせください。申込用紙をお送りします。またホームページからも申込用紙がプリントアウトできます。

www.japanforunhcr.org/maituki_top.html

募金箱設置にご協力ください

難民支援を何か難しいことと感じている方も多いかもしれません。たとえば募金箱の設置を第一歩にしてみてもいいでしょうか？ 店舗、病院、工場、公共施設などに設置していただくことにより、多くのお仲間と一緒に、難民支援にご協力いただければ幸いです。ぜひご検討ください。

募金箱(塩ビ工業・環境協会寄贈)/サイズ:縦9cm×横19cm×高さ14cm/色:半透明に青字で「国連難民募金」と書いてあります。/素材:プラスチック製



Edyでご支援ができるようになりました。

Edy搭載の携帯電話や、Edyカードをお持ちの方はホームページ経由でご支援をいただけるようになりました。こちらからご利用ください。
http://www.japanforunhcr.org/kifu_konkai.html



ケニア ダダブ難民キャンプ訪問記

難民キャンプで育つ子どもたち

日本UNHCR協会 中村 恵



女子トイレの前に勢ぞろいした女子生徒



2006年1月29日朝6時半、首都ナイロビを出発し、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の車で東北約500kmのダダブを目指す。9時40分に到着した町ウカジから警察の車がエスコートにつく。国連の安全基準に基づく決まりだ。ケニアで最も大きいタナ川に架かる橋を越え、12時に比較的大きな町ガリッサに着き、2時間ほど昼食休憩を取った。その先で、ダダブに向かう他の車と待ち合わせ、安全のために4台揃ってから、舗装されていない道に入って行った。そこから激しい揺れに耐える2時間強を経た夕方5時過ぎ、腰も背中もすっかり痛くなった頃、ダダブに到着した。

ソマリアとの国境から約80kmに位置するダダブに、UNHCRとWFP、現地で最大のパートナーNGOであるCARE等の職員が暮らす宿舎がある。その北方5km(Ifo)、17km(Dagahaley)、南東12km(Hagadera)



ダダブに向かう道

に難民キャンプがあり、それぞれ約5万人、3万人、5万人、合計約13万人が暮らしている。その大半は、1991年以降ソマリア内戦を逃れてやって来たソマリア南西部出身者だ。半砂漠的な乾燥地帯であり、1月から3月は乾季の中でも最も暑い時期で、日中の気温は40度を超える。

今回の訪問目的のひとつは、難民キャンプの子どもたちに「ワンダーアイズ・プロジェクト」に参加してもらうことだった。写真家の永武ひかるさんが世界数カ国で実施してきた企画で、子どもたち自身が写真撮影を体験をする。数ヶ月前からUNHCRダダブ事務所と連絡を取り、難民キャンプの教育事業を担当するCAREの全面的な協力を得て、現地での受け入れを進めてもらった。

各難民キャンプには、ケニア政府から公認された学校がいくつかあり、約5000人が初等教育課程(8年間)に通っている。各キャンプで45人の子どもたちに参加してもらった。低学年20人は原則として1人1台使い捨てカメラを用い、高学年は3人程のグループでデジタルカメラ1台を使って、数時間、自由に撮影する。初めてカメラを手にする子どもばかりだが、楽しそうに撮影に出かけて行った。

難民キャンプでは、さまざまな出会いがあった。フレンツ初等学校(Ifo)の校長先生は、1年程前に女優の菊川怜さんがUNHCR駐日事務所スペシャルサポーターとして来訪しサッカーボールを寄贈してくれたことを、嬉しそうに話した。かつてダダブに赴任していたUNHCRスタッフ千田悦子さんが「熱心に私たちの相談に乗ってくれた」となつかしように話す学校

関係者に2人も出会った。また、1985年ソマリア大学教育課程卒の資格を持つCARE教育事業担当現地スタッフであるアデンさんは、難民となってからの15年間を振り返り、次のように話した「1992年に来た私は、木の下に子どもを集めて勉強を教えました。今では多くの子どもたちが初等課程で学べるようになり、2000年には中等過程(4年間)も新設されましたが、進学できる生徒は限られています。ソマリアはまだ不安定で帰還は難しく、進学できない子どもは時間をもてあましています。職業訓練等の活動を提供することが緊急の課題です」。

UNHCRダダブ事務所長の小田島敏郎さんは、難民の長期滞在がもたらす問題を認識しながらも、ダダブにおける教育事業について次のように語った「まだ中央政府のないソマリアでは、教育を受ける機会はほとんどありません。難民キャンプで、将来ソマリア再建を担う人材を育てているとも言えるでしょう。特に女子教育に力を入れているのは、長い目で見れば、教育を受けた女子が経済・社会的変革をもたらすと思うからです」。

1992年に28歳でやって来たピントさんは、現在は女子5人、男子3人の母親であり、PTA役員として女子教育の推進に努めている。「子どもには男女別なく教育を受けてほしい。時々、自分の娘が国連スタッフのように颯爽と働いている姿を想像するのが!」と微笑んだ。 写真撮影：中村 恵

アフリカ難民に教育を!

ご支援ありがとうございます。

ご寄附：1186万1883円 件数：256件
(2005年1月1日～12月31日)

「緊急ファンド」と「最優先」統合のお知らせ

ご寄附指定先のひとつである「緊急ファンド」を2006年3月1日以降、「最優先(指定なし)」に統合します。「緊急ファンド」は本来、緊急事態に備えて皆様のご寄附を備蓄し、必要に応じてUNHCR本部に送金することを目的として設定されました。しかし、アフガニスタンに始まり、スーダン・ダルフル地方の人道危機、インド洋大津波、パキスタン大地

震など、備蓄する間もなく次々に送金する事態が続いています。また「最優先」と「緊急ファンド」の区別がわからないというご意見もありますので、緊急時にはその都度、具体的な名称でご支援を呼びかける形式に変更します。「最優先」は「UNHCR本部が必要と判断する援助プログラムに適宜充当させていただきご寄附」とご理解ください。

なお、2月末までに「緊急ファンド」とご指定いただいたご寄附は、「パキスタン大地震被災者支援」に充当いたします。

認定NPO法人 日本UNHCR協会

[国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)国内委員会]

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70

国連大学ビル(UNハウス)6F

TEL: 03-3499-2450 FAX: 03-3499-2273

Eメール: info@japanforunhcr.org

ホームページ: http://www.japanforunhcr.org

「With you」No.8 2006年第1号(3月)

発行人: 赤野間征盛

編集: 榎川勝也、中村恵、井上清治、山崎玲子

デザイン・製作: 榎ポイントライン

「世界難民の日」写真展 難民キャンプの子どもたちが写した写真等(仮題)/2006年6月19日(月)~7月14日(金)10:00-18:00 休館日:土・日/場所:UNハウス1階、2階/主催:UNHCR駐日事務所、日本UNHCR協会
ワンダーアイズ写真展 2006年6月20日(火)~30日(金) 場所:ユニコムノルタプラザ(新宿)/7月1日(土)~8月11日(金) 場所:汐留メディアタワー3階ギャラリーウォーク